

●被災斜面における二次災害発生に備えた斜面挙動監視



— Point —
◆崩壊直前の傾斜データ取得

吹付モルタルによる法面保護工が施された国道の切土法面において、豪雨の影響により、吹付モルタルを巻き込んだ地盤表層部が崩壊し、通行止めとなりました。当該国道は地域住民にとって重要な生活道路であることから、安全な道路開放の早期実現を達成するため、崩壊箇所及びその近傍にて、斜面崩壊感知センサー「感太郎」を6基、崩壊法面全体を見渡せる箇所に「監視カメラ」を1基設置し、リアルタイム自動監視を行いました。道路開放前の計器設置直後に、崩壊箇所に設置した感太郎では、X軸・Y軸ともに傾斜累積を捉え、設置約23時間後に転倒し、**崩壊直前の傾斜データを取得することができました**。このように、あらかじめ管理基準値を設定し自動監視を行えば、事前に崩壊現象を検知することができることから、感太郎は『減災支援ツール』としての利用が期待できます。



感太郎転倒までの傾斜挙動